人を大切にし　豊かな心を育む　ふるさと車尾

住　民　主　体　のまちづくり

No.60　2019．1　　編集発行：車尾まちづくり推進会議　事務局

■　車尾地区防災フェア

会場を各自治会と車尾公民館で、11月18日(日)午前9時から行われました。はじめに地震発生により火災が起きたことを想定して、無線放送を流し、各自治会で安否確認と避難場所に集合して公民館（災害本部）まで移動しました。

公民館では、午前10時から災害図上訓練ＤＩＧを行いました。これは、災害（Disaster）のＤ、想像力（Imagination）のＩ、ゲーム（Game）のＧの頭文字を取って名付けられた、誰でも行うことができ、誰もが参加できる簡易な災害図上訓練です。英語のdig［動詞］は、「掘り起こす、探求する、理解する」と言った意味があるが、「防災意識を掘り返す」「地域を探求する」「災害を理解する」といった意味も込めて、この災害図上訓練のノウハウを「ディグ」と呼んでいます。ＤＩＧを、一言で言うと、「大きな白地図を参加者7～8名ずつで囲み、災害対策本部の運営のイメージトレーニングをしてみよう」と言うものです。みんなが一緒になって対応策を考え、真剣だがゲーム感覚で気軽に行うことのできる、災害対応のためのトレーニングです。

鳥取県消防学校教官の指導のもと、用意された白地図を囲んで地域で大きな災害が発生する事態を想定し、カラーマジックを用いて、危険が予測される地帯または事態を地図に書き込んでいきます。まず①主要道路を茶色、②路地・狭あいをピンク色③河川・用水路を青色、④広場・公園・学校などを緑色、⑤延焼防止の地域を紫色で書き込みました。そして⑥危険となる施設を赤色シール、⑦要支援者のいる世帯を黄色シール、⑧自宅の場所を白色シール、⑨公務員・消防署員など人的防災資源は緑色シールを指示に従い張っていきました。これにより、「災害を知る」、「まちを知る」、「人を知る」ことで、地域の防災力、災害への強さ、弱さを認識し、防災に対して今後どのように対応していけば良いのかを理解することがＤＩＧの一番の特徴です。参加者からは「今回初めての図上訓練ＤＩＧであり、戸惑いもあったが講師先生の的確な指示により、しっかり危機意識を持てたと思います。毎年このような新しい要素を取り入れ訓練を重ねていくとみんな本気になると思います。」と感想を述べた。

■　地域づくり学習会

今回は、車尾４区にお住いの佐々木彬夫氏の「日野郡日野町の古民家『沙々樹』を拠点にした地域活性化の取り組みを紹介いただきました。会場は車尾公民館で、11月15日（木）午後1時半から行われました。佐々木氏は、幼少期に東京から当時の鳥取県日野郡日野村に疎開された縁もあり、古民家の利活用が文化創造に繋がると決意され、日野郡日野町の古民家を拠点に毎年「囲炉裏端で聞く民話の会」「古民家コンサート」「雛段飾りの展示」など様々なイベントを企画して来られました。やがて人々の関心が高まり、展開が拡大して「奥日野五山の魅魅力」「出雲街道ウウォーキング」「た「たたら古道ウォォーキング」「黒坂坂城下寺社めぐり」り」など根雨からら日野郡全域を舞台にして人々を魅了させています。